

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度も引き続き、基礎的・基本的な知識の定着を図るための工夫が必要である。ドリルパーク等で反復・習熟を図る時間を確保するだけでなく、個人差が大きいことから、個別に支援できる手立てを考えていく。多くの学年で共通して課題としてみられる漢字や主語・述語、小数・分数の計算等を重点的に取り組めるようにする。
思考・判断・表現	協働的な学習の工夫・改善をし、自分の考えを明確にもてる授業を行う。自分の考えを深める・広げる手立てとして、相手の考えを明確に捉え、自分の考えと比較することを意識して学習に取り組めるようにする。また、毎時間、授業の振り返りの時間をしっかりと確保し、友達の考えと自分の考えを比較した内容を記録に残すことができるようにする。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】国語においては、言葉の使い方や特徴に関する問題で正答率が低い。算数においては、数と計算の問題で正答率が低い。 【指導上の課題】児童が反復・習熟に取り組む時間を十分に確保できていない。児童が意欲的に学習できる授業が少ない。	⇒ ドリルパーク等を活用し、漢字や基本的な計算の反復・習熟する時間を確保する。【週2回】GRIT目標等を活用し、粘り強く意欲的に学習に取り組めるようにする。【さいたま市学習状況調査において、「国語・算数の勉強は好きですか」の質問項目で肯定的な回答の割合を70%以上にする。】
思考・判断・表現	【学習上の課題】国語においては、読むことに関する問題で正答率が低い。算数においては、図形や、計算の仕組みについての問題で正答率が低い。 【指導上の課題】協働的な学習が効果的に行われていない。	⇒ 協働的な学習を行う際は、課題を明確化し、学びを深める。また、ICTの活用により思考の可視化を図る。国語では、物語やスピーチ等の内容を要約して話し合う活動をし、身に付けた力を他教科でも生かせるようにする。【毎回実施】【さいたま市学習状況調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目で肯定的な回答の割合を80%以上にする。】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	さいたま市学習状況調査において、「国語・算数の勉強は好きですか」の質問項目で肯定的な回答の割合が国語では70%、算数では65%であった。ドリルパーク等を活用した反復・習熟の時間は、週1回程度業前の時間に行った。授業中にも取り組める回数を増やしていく必要がある。GRIT目標は年間を通じて取り組み、毎学期の初めに見直しをした。また適宜、学期の途中で1回程度、見直しをした。
思考・判断・表現	B	さいたま市学習状況調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目で肯定的な回答の割合が90%であった。協働的な学習において、課題の明確化やICTの活用は意識して授業を行うことができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、漢字や主語・述語の関係の問題において正答率が低い。昨年度も敬語等に課題がみられていることから、言葉の特徴や使い方は学校全体の課題といえる。算数では、「数と計算」の領域や速さを求める問題に課題がみられた。□を用いた式や小数の除法など、昨年度と同じ内容に課題がみられた。 【国語・算数の勉強は好きですか】の質問項目における肯定的な回答が、国語は79%、算数は50%であった。算数においては、意欲的に基礎的な問題に繰り返し取り組める工夫を継続していく必要がある。
思考・判断・表現	国語では、目的や意図に応じて、適した内容を選択する力、事実と意見を区別する力に課題がみられた。「読むこと」においても、物語の人物像を具体的に想像する問題で課題がみられた。算数では、計算のきまりを使って求め方を記述する問題や球と立方体の関係を捉える問題において正答率が低い。昨年度も同様の内容における正答率が低く、学校全体の課題といえる。 【学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか】の質問項目で肯定的な回答85%であった。各教科で協働的な学習ができるよう継続していく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、漢字や主語と述語、指示語の問題等に課題がみられた。算数では、小数や分数の計算など基礎的・基本的な計算問題に課題がみられた。十分に基礎的・基本的な知識を身に付けるための時間を確保できていなかったと考えられる。
思考・判断・表現	国語では、描写を基に登場人物の心情を読み取る問題や、話し手の意図を捉える問題に課題がみられた。小グループで話し合う学習活動を効果的に活用する必要がある。算数では、グラフを正しく読み取る問題や図形の問題で課題がみられた。ICTの活用や協働的な学習において、自分の考えを明確にする学習活動の意識を高める必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	週2回の業前の時間、各授業時間においてドリルパークや計算ドリル、漢字ドリル等の活用をし、概ね目標通りだった。各学年でGRIT目標に取り組み、一人ひとりが粘り強く取り組める目標を設定することができた。	学習ログの活用をし、ドリルパークの繰り返しの取組への意欲付けをする。【週2回】(追加)GRIT目標を活用する際は、学期の途中に1回程度見直しを図り、意欲を継続させる。【学期に1回】(追加)
思考・判断・表現	B	ICTの活用とともに授業改善を図り、協働的な学習を意欲的に進めることができた。さらに学びを深めるために、より授業の質を高めていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)